

# みえ災害ボランティア支援センターについて

## ■ みえ災害ボランティア支援センター設置まで



未曾有の大地震が発生した3月11日の夜、みえ県民交流センターにNPO法人みえ防災市民会議の山本議長（現みえ災害ボランティア支援センター長）の呼びかけに応じて幹事団体が集まりました。幹事団体は6団体、NPO法人みえ防災市民会議、同みえNPOセンター、三重県ボランティア連絡協議会、社会福祉法人三重県社会福祉協議会、日本赤十字社三重県支部、そして三重県（防災対策室、社会福祉室、男女共同参画・NPO室）です。災害救援に取り組むNPO、民間団体と県行政が協働で、被害発生都度設置し、被災者の支援を行う三重県独自の仕組みです。幹事団体は阪神・淡路大震災、ナホトカ号重油流出事故、東海豪雨などの災害時の経験やノウハウを生かして、三重県地域防災計画および「災害ボランティア活動の支援に関する協定書」を締結しています。

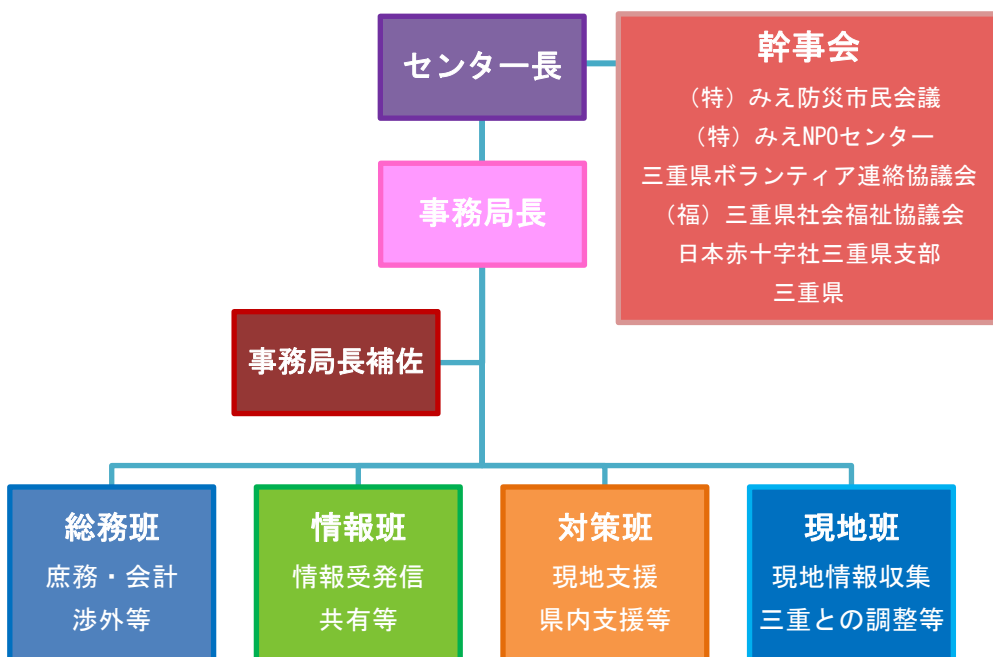
集まった幹事団体では東日本を襲った災害の情報を収集し、資金の拠出計画やニーズにあった支援の構築に合意しました。そして3日後、みえ災害ボランティア支援センターがみえ県民交流センター内に設置されました。

## ■ 事務局体制の整備

4月11日、みえ県民交流センターは興奮と熱気に包まれていました。大震災と津波の被害の報告、先遣隊となって現地を訪れた人の報告、早々に現地にとんで支援活動を展開したグループの話・・・、そして、被災された方々が笑顔を取り戻し地域が復興するまで、息の長い支援活動を三重から展開することを宣言した「東日本大震災復興支援みえ宣言」が謳いあげられたのです。

この日を境に事務局体制が急ピッチで整備され、5月1日には専任スタッフによる現体制の基礎ができました。特に現地スタッフ雇用の必要性については、知事からの強い後押しがありました。当初、現地スタッフは山田町災害ボランティアセンターに1名を配置していましたが、現在は山田町商工会と観光協会に各1名が机を置かせていただきながら、災害を経験した当事者ならではの視点で、山田町と三重との架け橋になっています。

## ■ 組織図



## ■ スタッフ

センター長	山本 康史
事務局長	若林 千枝子
事務局長補佐	伊佐 彰代
総務班長	番家 康文
情報班長	山畑 直子
対策班長	森本 佳奈
スタッフ	坂井 孝行
〃	松岡 佑美
〃（山田町）	佐藤 辰也
〃（山田町）	外館 こずえ





### ■ 現地事務所としてのトレーラーハウス設置

当初、現地で活動するボランティアの方々からの提案を受けて活動を改善したり、現地の災害ボランティアセンターとの打合せを行ったりするなど、すべての事を三重にある事務局本部で対応していました。しかし、どうしても現地との温度差ができてしまったり素早い対応ができないという課題があり、現地事務所の必要性を議論してきました。その頃 Trailer house partners professional team(東日本大震災および福島原発事故の被災者復興にむけ、支援活動をしている団体への後方支援を目的にした組織)からトレーラーハウス貸与の話を持ちかけられました。このトレーラーハウスは、Trailer house partners professional teamが国内生産したモデル第1号と聞いています。建築許可が下りず地域の復興に向けた1歩を踏み出せずにいる被災地域にとって、様々な可能性を提示できるモデルともなるだろうと思われ、みえ災害ボランティア支援センターの山田町事務所としてのみでなく、どなたにも見学していただけるモデルハウスとしての機能を兼ね備えることとしました。

山田町への継続支援の拠点として、山田町災害ボランティアセンターのご理解とご協力により、センター施設内グラウンドに現地事務所を開設させていただくことになりました。現地事務所開所式には三重県知事も参加し、息長く充実したボランティア活動への支援を約束しました。

### ■ 事務局長のつぶやき

3月いっぱいまで退職という2011年。さてさて40年の県職員生活に区切りをつけて、残りの人生をどう生きようか。家族に支えられて今の自分があることに感謝してエンディングノートの準備をしよう。その前に親の介護があるし、それから趣味を活かして地域貢献もやりたい。そうこう考えているうち、起こったのです。あの大震災が！

そして身の程もわきまえず事務局長という大役を引き受けることになったのは、息子とさほど年の違わないセンター長や、ボランティアのみなさんの熱い気持ちに奮い立ったからでした。熱い想いは事務局スタッフ全員にも通じます。やっぱりこれは“ほっとけませんわ！”。それからの1年、スタッフのみんなとがむしゃらに、全力疾走で走り続けた感があります。今になって思うこと、それは“やってよかった”ということです。いえ正しくは“やらせてもらって”ですね。ボランティアに求められるのは自発性と自己責任です。三重の人には、本物のボランティア精神が根付いていると思いました。そして命の重みと人の心の温かさを、改めて考えさせられた1年でもありました。



### ■ 情報発信

みえ災害ボランティア支援センターでは、【みえ発！ボラパック】を中心としたボランティア活動の報告や、ボランティアの募集、三重県内に避難されている方への情報、山田町の様子、また他団体からの情報提供など、様々な媒体を使い情報発信をしています。

- みえボラ新聞（不定期・現在第8号まで発行）
- ニュースメール（不定期配信）
- ホームページ <http://mvsc.jp>
- ツイッター  
事務局スタッフアカウント mvsc\_jimukyoku  
山田町スタッフアカウント mvsc\_yamada
- フェイスブック <http://www.facebook.com/mvsc0311>